

御殿場

十字の園

(題字 鈴木生二)

2009
No.187号

10

発行/総合福祉施設
御殿場十字の園
施設長 上野 貢一

〒412-0023 御殿場市深沢1465の1
TEL 0550-83-1999
FAX 0550-82-5189
<http://www.jyuji.ne.jp>
e-mail;info@g.jyuji.or.jp

印刷/岳麓印刷株式会社

〔聖句〕喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマ12:15)



9/2 菅原ナカさんの100歳お祝いに若林洋平御殿場市長(右)訪問

イルド

理事長 平井 章

「だれが特別養護老人ホームを創設したのか」。これは介護情報誌に加藤仁氏(作家)が書かれているタイトルです。「老人福祉法が制定される以前に、一人のドイツ人女性の無償の奮闘があつて特別養護老人ホームの原型が作られた」と書き進められています。

そのドイツ人女性こそ、十字の園を創設したデアアコニッセ・ハニ・ウォルフ姉妹です。

同じ敗戦国であるドイツから来日し、自らの使命を「神の御用」として特養を創設した原動力は、デアアコニッセ(奉仕女)として養われた六つの「生活訓練」の中にあります。

それは、沈黙(言葉と顔つき態度に細心の注意をもつ)、完全(全てに完全で他人の手本となる)、服従(命令と服従の関係を人格的なものとする)、可能(母の家では不可能の言葉はあり得ない)、平安(深い平安をたたえた波たたぬ心をもつ)、共産(主の弟子たちと同じ原始共産生活)の訓練です。

「老いと向き合う」

御殿場十字の園施設長 上野 貢

ある本の冒頭に、映画監督の山田洋次氏の言葉が書かれてありました。「一言で言えば想像力。想像することは、つまり思いやること。いまの時代。注意深く相手を観察する能力がとて欠けていると思います。」

敬老行事「園遊会」は、今年で第三十八回目になります。九月十二日(土)に、ご来賓、家族、地域の方々をお招きして、多くのボランティアのご支援をいただきながら、高齢者の長寿を祝いました。今年利用者全体で、百一歳の高齢者を始め米寿以上の方が七十名おられました。参加人数は二百五十名弱。特に、今年初めてでしたが、カラオケ大会を企画しました。企画した職員は歌ってくれるのか不安だったようですが、百歳の高齢者を始め、特養、ショート、デイサービス、ケアハウスの

皆さんが歌ってくださいました。認知症の方も歌い、感動を覚えました。一番元気が良かったのは特養の方々でした。

「主役は、あなた」多くの観客が見守る中、スターになって、歌い終わって拳をあげ「ありがとう」に、また観客の拍手が起きました。この盛り上がりは、かつてないことでした。終わった後も、いつまでもその余韻が残り、その感動の会話があちこちでありました。今度、カラオケクラブが出来るとです。施設に入る前は、歌っていたのでしよう。失うものが多い中、まだまだ、人生の時間があり、人生前向きに何かが出来る。何かを楽しむことができる。職員は「老い」について知らないことが沢山あるように思います。施設の職員は、「声掛け」を多くしています。その人の名前をぶ。三人称ではなく、

「次に伝えていくもの」

評議員 御殿場教会 中島英治

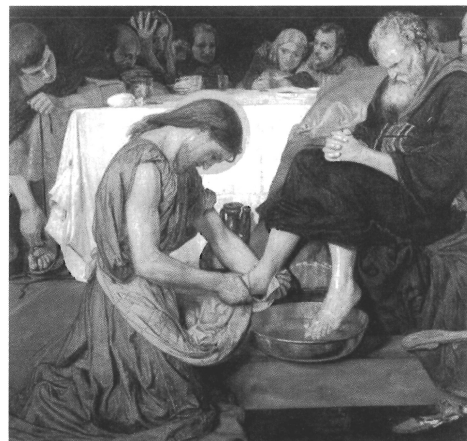
自分が働いている職場がどのようなものか、知って働くことが大切です。十字の園は介護関係施設の中でも先駆者であり、昨今登場した介護ビジネスとは大いに異なっています。それは十字の園が、聖隷事業団と言う先輩を持っている事に起因します。

聖隷事業団は御存知の通り、戦前の暗い時代に、結核と言う病を患者さんと共に、社会の冷たい偏見を受けつつ、それでもたくましく施設全体で闘ってきた歴史があります。そして事業団の草創期から、職場では多くのキリスト者がこの戦いの歴史に加わっていました。その忍耐強い働きぶりから、彼らが「施設で働く」というだけでなく、すべて

の人を愛してくださる神様の愛と導きを固く信頼し、神様と人に仕える「感謝と喜び」をもって働いていたことは疑いようありません。

しかも当時の社会的偏見の強さを踏まえれば、キリスト者が「感謝と喜び」をもって職場で働くことの困難さは、今の比ではありません。にもかかわらず、多くのキリスト者は神様の愛の力に突き動かされて、弱さと痛みを抱える人々に、「感動と喜び」をもって仕えて来ました。

この変わる事のない職場の理念、そして闘いの歴史を、十字の園は、受け継いでいます。だからこそ貴重な理



弟子の足を洗うキリスト

念と歴史を受け継ぐ職場として、現在それらが空文化されていないかどうか、絶えず神様の御前に謙虚に検証しつつ、すべてに取り組む姿勢が欠かせません。

特に毎朝の礼拝は、あってもなくても良いオマケではありません。先輩たちが培った理念と歴史を受け継ぎ、十字の園が「感謝と喜び」の職場とされるための土台です。

十字の園の職員、利用者、すべての人が、「神様への感謝と喜び」を表わす仲間となりますように祈り続けます。

固有名詞で名前をちゃんと呼ぶようにしています。嘗て、暮らしの中では、隣近所、誰でも知らない人はいませんでした。どこそこの誰それさん。地域が、家族のよくな存在でした。自分のことを知っている安心する暮らしがそこにありました。職員は、一行日誌を書いて、毎日、必ず一行書くようにしています。それは、その人の存在を認め、その人により知るためです。カンファレンスで、家族からその人のことを教えていただきケアプランにも載せます。職員は、介護度がついて入所して来られた方の最晩年でしか知りません。「寄り添うケア」とはどういうことなのか。いったい「人間の

交わり」とはどういうことなのか。「家族のような暮らし」とはどういうことなのか。その人に寄り添いその人が腹いっぱい話をしていただくことも大切です。その為にも「声掛け」はとても大事です。老いは静かに忍び寄って来ます。気が付いたら年を取っていたというのが現実でしょう。「老いと向き合う」暮らしは、想像力を高める暮らしでもあります。どこかで、安心して「生きていてもいいですよ」と、イエス・キリストの声が聞こえて来るようです。



「おはようございます。こちらへどうぞ。」午前十時前後、本日入園される利用者の方が到着されお迎えします。「おはようございます」「お世話になります」「私の席どこ?」「やあだ、あんた泊っていたの?」などの会話が聞かれます。私どものショートステイは、定員十一名で受け入れ、介護保険法でのご利用と、障害者の方の自立支援法でご利用との併用となっております。下は二十代、上は九十九歳までとそれこそ幅広い年齢層の方がご利用されています。スタッフは職員七名、パートさん三名、それに送迎のパートさん二名です。



食のイベント「焼き鳥」

ショートステイは、一時的にせよ住み慣れたご自宅、ご家族と離れて施設に泊まらなければなりません。ご利用される方には、不安やとまどい、寂しさが常にあると思います。また、ご本人にとって慣れた環境では無い為、予期し兼ねる事故なども考えられます。スタッフは、そうした利用者の方の気持ちをくみ取り、環境を整え、安全に且つ安心して利用できるサービスが提供できるよう努めています。サービス提供がスムーズに行えるよう担当のケアマネージャーさんとの情報交換も密に行うよう努めています。ショートステイでは、利用される方が少しでも季節を感じ、楽しく過ごして頂けるよう、様々なイベントを行っています。食のイベントは月に二回（ホットケーキを焼いたり、ちらし寿司を作ったりしました）春と秋にふじざくらデイサービスやたかねデイサービスと合同の運動会を実施。その他、お花見ドライブや紅葉ドライブ、忘年会やビアガーデンも行っています。時の栖にイルミネーションを見に行きますよ。こうした、イベントや行事は利用者の方同士がふれあう良い機会にもなるようです。

夕涼み会

実行委員長 渡辺 秀美

夏のイベントの一つ、夕涼み会が先月行われました。今年も開催直前まで天気に悩まされました。屋内開催か、それとも屋外で開催するか、雲の流れを首が痛くなるほどに眺めていたのですが、イベント本番には天気は落ち着き、たくさんの方々の利用者さんやその御家族、多くのボランティアの方々にお越しいただき、中庭で盆踊りや花火を楽しんでいただくことが出来てほっとしました。模擬店では、焼き鳥焼きそば・おにぎり等を用意し、皆さんにおいしく召し上がっていただけました。

さらに、皆さんが知っている歌ならば、口ずさんで一緒に歌ってくださいるのではないだろうか。昔を懐かしんでいただけではいかと考えると、イベント中盤に、今年初めての試みとして会場と一緒に唄を歌う企画を立てました。歌詞カードは十分に用意したものの、暗がりでは見えにくいのではないかと心配したのですが、参加していただけた皆さんの歌声が一つになった時は、本当に感動しました。皆さんの喜んでる姿を見ることができたことは、とても嬉しく思います。今年も無事に夕涼み会を終える事が出来ました。参加してくださった皆様、そして協力してくださったボランティアの皆様にご感謝いたします。ありがとうございました。



園遊会

実行委員長 勝俣 和也

九月十二日、第三十八回園遊会が行われました。今年も利用者、御家族を含め約二百五十名近くの方が出席されました。アトラクションでは、職員による「よさこい」、エンジェルハイモニーの皆さんによる「ハンドベル演奏」、裾野阿波踊り舞路奴連（まいろーどれん）の皆さんの「阿波踊り」があらわれ、涙を流して



感動している方もいらっしやいました。午後の部では今年から新たにケアハウス食堂スペースにてカラオケ大会が催される施設を利用している方々、職員共に非常に盛り上がり、皆さんの意外な面も見る事が出来ました。多くのボランティアの方々にも協力して頂き、記憶に残る園遊会になりました。

ケアハウス 御殿場アドナイ館

入居者の様子

ケアハウスアドナイ館では、今年に入ってから、二ヶ月に一度お菓子作りをクラブ活動として行っております。



バナナマフィン
（8ヶ月前に作りました）
材料（6個分）
卵黄/白身 100g
上白糖 80g
卵 2個
薄力粉 120g
ベーキングパウダー 小さじ1
バナナ
作り方
バナナ
ダー

今まで作ったお菓子は、スウィートポテト、オートミールココナッツクッキー、バナナマフィン、黒ごまのシフォンケーキです。

写真は、バナナマフィンを作っている様子です。バナナを潰したり、小麦粉・砂糖の分量を量ったり、泡立てたりとそれぞれ役割を決めて行います。

皆さん任せられた事を、一生懸命真剣な表情でやっておられました。お菓子が焼けたあとは、お茶の時間です。お茶を飲みながら、「今日のケーキは美味しく焼けたねー。」など出来具合をお話しながら、美味しくいただきます。



笑い声も聞こえて、楽しいひとときを過ごします。（鬼塚）

〈ボランティア紹介〉

ボランティアとして

東山婦人会 渡辺 恵子

東山婦人会は、隣接区とい
うこともありまして、開所間
もない昭和四十七年度からボ
ランティアをさせて頂いてい
ます。当初は年一回程度でし
たが、昭和五十年年度からは、
九班が班毎に何うようになり
ました。

洗濯物を畳んだり、雑巾を
縫ったり、お掃除をしたり花
壇の手入れをしたりと、私た
ちができることは、家事の延
長ですが、時にはお衣装を着
けての民踊を披露したり、お
祭りにたこ焼きをたくさん焼
かせて頂いたりしたこともあ
りました。

す。

今年度の夕涼み会は天候に
恵まれ、戸外で開催できまし
た。私たちの踊りに合わせて
楽しそうにしていらつしやる
入所者の皆様の笑顔は、私た
ちに喜びを与えて下さいまし
た。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く
人と共に泣きなさい」十字の
園の理念だと伺いました。私
たち地域の者もボランティア
を通して、人生の先輩に教えを
受け、共に歩ませて頂きたい
と思います。



〈イベント紹介〉

ビアガーデン

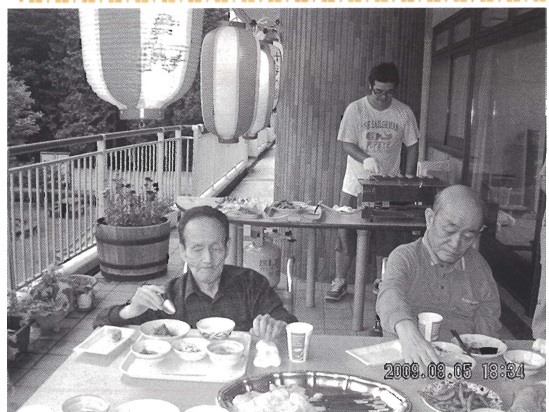
ちどり・ほととぎす 高木 直也

八月二十八日の夜、「ちようちゃんがいいねえ。」「こうい
う雰囲気好きだわ。」と利用者さん同士の会話が飛び交いま
す。一階のペロニカホールを即席のビアガーデン会場にセ
ットイングし、ビールや甘酒、ジュース、つくねや枝豆、
冷やっこにもずくなどを頂きながら利用者さんと職員とも
に歌を歌ったりゆっくりおしゃべりしたり、最後にはよさ
こいチームのおどりを見て楽しみました。



ひまわり・あじさい 塩谷 幸枝

八月五日、ひまわり・あじさいユニットでは全員参
加で夕食を兼ね、ビアガーデンを行いました。ペラン
ダにテーブルを出し焼きあがったつくねや冷やっこ・
枝豆をつまみにビ
ールを口にするみ
なさん。当日まで
ベッド生活をされ
ていた方も、これ
を機に起き上がっ
て一緒に参加して
下さいました。入
居している皆さん
も、職員もいっし
よになって楽しむ
事が出来たひと時
でした。



献金下さった方々

敬称は略させていただきます

6月分

木村裕子、小松智明、渡辺
広子、匿名、関根美代子、伊
勢田きぬ

7月分

中島善子、杉山葉局、高村
せつ子、上野チャヤ子、安藤文
知子、高村さよ子、佐野みゆ
き、西村正子、福島保房、大
塚京子

8月分

平井わか、大野原建設業、武
藤りん、小宮山亨、日吉弘志、
鮎沢青年団、深沢青年団、
東山青年団、市婦連福祉グ
ループ、小宮山公平、福田泰
子、大洋妙子、丸木進、三枝
弓子、瀬戸さと、林ヒデ子、
小松保、小川直子

協力ボランティア

6月

みくりや友の会、みくりや会、

7月

みくりや友の会、シヤマイム
池谷、高橋文夫、印野はざま

8月

の会、杉山和子、厚生年金婦
人部、鈴木真咲、深沢民謡ク
ラブ、ビューティー山田、木洩
れ日朗読の会、隆生会書道、
加藤正代、土屋明子、しきな
み短歌会、玉穂婦人会、AKI
I美容室、中里京子、御殿場
市赤十字奉仕団、なでしこ会
市野はつ、高村恵子、勝又静
江、芹澤菊枝、鈴の会、御殿
場教会、勝又町子、井村弘子
市婦連福祉グループ、太極
拳カツマタ、芹菅原幸和、鈴
木真咲、深しいさ子、高根か
しわ会、深沢婦人会、深沢
青年団、東山青年団、鮎沢
青年団、不二聖心女子学院
中学生、御殿場高校生、小
山高校生、原里中学生、さわ
やか部会、高根婦人会OB会、
高根中学生

部会、高根婦人会OB会、高
根中学生

あとがき

十月は『神有月・神在月（か
みありづき）』。日本中の神様
が出雲大社に集まってくるため
出雲国（現在の島根県）ではこ
のように表記されます。出雲が
いつぱいになるのは神様だけで
はなく、「神様がいらっしゃるこ
ろを」と全国津々浦々から人々
がやってくる。おかげで出雲
大社の真正面にある竹内まり
やさんのお実家、創業百三十年
を誇る老舗旅館「竹野屋」は、
神前結婚式を挙げる予約者で
いっぱいになると聞き及びます。
一方、島根県以外のカレンダーに
記載される『和暦』のこの月は、
神様が留守なので『神無月（か
んなづき）』と表わされます。昨
今の結婚式・披露宴の主流は
和装となつているため、この『神
様不在』は、八月の閑期に次い
で昨今結婚式場が頭を抱える
要因となつているとのこと。
九月は夏色が時に顔を出しま
すが、十月は空気に薄く寒色
の水彩を溶いたように、澄んだ
透明な感覚が浮き立ちます。
だからこそ色に左右されず『在
り』『無し』が良く判るのかも
しれません。そんな秋の気配を
感じつつ、この機関誌をお届け
いたします。
(やまもと)

介護タクシー

介護タクシーも皆様のお陰で今年の11
月で、まる4年を迎えます。
ご利用者様に安全・安心を提供でき
るように担当職員一同がんばって参ります。
今後ともよろしく願ひします。
初めてお読みになる方もいらっしやると思
いますので、介護タクシーの紹介をします。

・ご利用対象者

- ①介護保険の「要支援」「要介護」認定を受けている方。
- ②「身体障害者手帳」や「療育手帳」をお持ちの方。
- ③①②の他、肢体不自由、内部障害、知的・精神障害などでお一人では公共交通機関を利用するのが困難な方。及び、その付添い人

・料金（詳細は担当までお問い合わせ下さい。）

初乗り運賃 最初の1.5キロメートルまで 600円
迎車回送料金（お迎え料）130円
割引について 障害者割引・高齢者割引等あります。（1割引）

